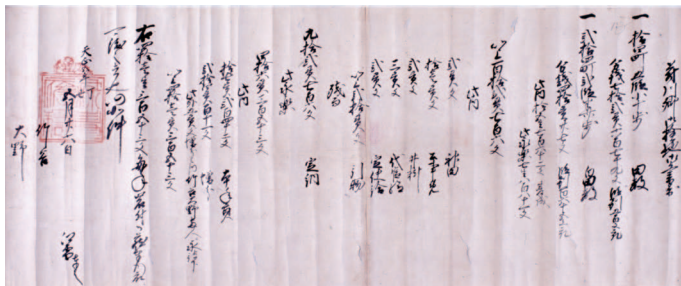


北条家検地書出

菅間の旧家に所蔵されていた約430年前の戦国時代の文書です。当時河越地方を支配していた戦国大名北条氏が府川郷（現府川付近）の検地の詳細を書き記し、同郷が負担する年貢を永楽銭という当時の貨幣で納入するように命じたもので、今の納税通知書に当たります。田と畠に係る税金を銭に換算した額、次に同郷が納入する年貢の順に記されています。この書式は、北条氏が出した検地書出の最も基本的な形式で、貴重な文書です。最後に押されている朱印は、北条氏が村等に宛てて出す文書に押されるもので、上部に虎が描かれていることから、「虎の朱印」とも呼ばれています。



北条家検地書出（個人蔵）

この文書を含め、最近の調査で戦国時代の文書がまとまって発見され、市指定文化財に指定されました。これを受け博物館では、第39回企画展「戦国時代の河越―城・城下・村―」を11月24日（日）まで開催しています。戦国時代の河越に思いを巡らせてみてはいかがでしょうか。



セロリ

独特の風味と香りのセロリ。三つ葉に香りが似ている

場するセロリ。長澤さんのお薦めは葉の天ぷらです。「葉には多くの栄養素があります。天ぷらにすることで独特の香りが和らぐので、苦手な人でもおいしく食べられると思います。茎だけでなく、ぜひ葉も食べてみてください」とのこと。



「茎が太く、茎の下の部分がおたま状に丸く、ふしが長いものが美味しいです」と、長澤さん

ことから、オランダミツバとも呼ばれています。「6月に種をまき、8月に定植します。近年の猛暑で、苗が枯れたり腐ったりしやすいので、水の管理には特に気を使います」と話すのは、鴨田でセロリを育てて30年の長澤一雄さん。セロリは根が浅く乾燥に弱い・葉に虫がつきやすいなど栽培が難しく、断念してしまう人も多いとか。長い年月をかけ、土づくりや防虫対策など工夫し、より質の高いセロリ作りに力を注いできました。サラダや炒め物、漬物などさまざまな料理に登

食欲増進効果もあるといわれているセロリ。長澤さんの育てたセロリは、12月上旬まで伊佐沼農産物直売所、あくれっしゅ川越に出荷予定です。



伊 佐沼東岸花畑で、コスモスが色鮮やかに咲いています。花の間を歩ける道があるので、間近で写真を撮ったり散策したりすることができます。花は、11月中旬ごろまで見る事ができるそうです。

駐車場を併設しています。ご利用ください。

駐車場開場時間：午前8時～午後5時

編集後記
どんぐり